

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 8 日現在

機関番号：23901

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21792331

研究課題名（和文） 介護保険施設で働く看護師の倫理的感受性を高める教育方法の開発

研究課題名（英文） The Development of an Ethical Education Program Designed for Nurses to Promote their Moral Sensitivity in Geriatric Health and Welfare Facilities

研究代表者

藤野 あゆみ（FUJINO AYUMI）

愛知県立大学・看護学部・講師

研究者番号：00433227

研究成果の概要（和文）：介護保険施設の入所者が尊重され、質の高い生活を送るためには、高入所者にケアを提供する看護職の道徳的感受性を高める必要がある。そこで本研究は、介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性を高める倫理教育プログラムを開発し、実施・評価することを目的とした。作成した倫理教育プログラムを介護保険施設の看護職に対して実施・評価した結果、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の2つの下位尺度の得点の実施後に有意に高くなった。以上より、作成した倫理教育プログラムは、介護保険施設の看護職の道徳的感受性を高める一定の効果があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop, carry out, and evaluate an ethical education program to promote nurses' moral sensitivity in geriatric health and welfare facilities. Scores on two factors of the "moral sensitivity questionnaire in geriatric health and welfare facilities" were significantly higher after the ethical education program, suggesting that the program helped to promote nurses' moral sensitivity in geriatric health and welfare facilities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	0	0	0
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：介護保険施設・倫理・教育方法

### 1. 研究開始当初の背景

2000年に介護保険制度が施行されてから約10年が経過した。その間に「身体拘束ゼロへの手引き～高齢者ケアにかかわるすべての人に～」が作成された。また、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」も制定され、高齢者の人権を擁護する意識が高まってきた。介護保険施設でも終末期の意思決定のような危機的場面

だけでなく、アメリカのナースィングホームで Everyday ethics<sup>1)</sup> と指摘されるような生活援助場面における倫理的課題に目が向けられるようになってきた。

介護保険施設における倫理的課題は、入所者同士の恋愛問題から身体拘束まであらゆることがらが含まれる可能性があり、多様で幅広くかつ複雑であることが推測された。このような多様な倫理的課題を介護保険施設

で働く看護職が的確にとらえて働きかけるためには、看護職は倫理的課題を敏感にとらえる道徳的感受性を備えていることが欠かせないと考えられた。

しかし、看護職は日常の様々な問題を看護倫理上の課題ととらえる視点が弱いと指摘されてきたため<sup>2)</sup>、介護保険施設の看護職が施設の生活援助場面に倫理的課題が存在することを知り、それを敏感に捉えて倫理的な判断ができるように支援することが急務であると推察された。そこで、介護保険施設で働く看護職を対象に、その道徳的感受性を高める倫理教育プログラムを開発し、実施・評価することが必要であると考えた。

## 2. 研究の目的

介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性を高め、看護職が日常場面で生じる倫理的価値の対立状況を看護ニーズと認識し、解決に向けた介入をできるように支援することが必要であると考えられた。

本研究の目的は、(研究1) 介護保険施設で働く看護職の倫理的ジレンマとその対処について把握し、(研究2) 介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度を作成すること、そして(研究3) 介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性を高める倫理教育プログラムを開発し、実施・評価することである。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、平成22年度から平成24年度にわたって(研究1)～(研究3)に取り組んだ。

### (1) 研究1

平成22年度は介護保険施設の看護職が抱える倫理的ジレンマとその対処の特徴を把握するために半構成面接による質的研究を行った。研究参加者は、介護保険施設で働く看護職20名であった。データ収集方法は、半構成面接法とし、得られたデータを質的に分析した。

倫理的配慮としては、研究参加者に対して研究目的、研究方法、研究への参加は自由意志に基づいていつでも中止できること、研究への不参加によって不利益を被ることはないこと等を口頭および文章で説明した。

また、プライバシー保護を遵守し、研究成果は公表するが、研究参加者個人および施設を特定するデータを用いないこと等についても口頭および文章で説明し、文章による同意を得た。以上のような配慮をし、所属大学の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

### (2) 研究2

平成23年度は前年度の質的研究のデータ

を基にして、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の原案となる項目を作成し、全国の介護保険施設の看護職を対象にした質問紙調査を実施した。

対象者は、施設長より本研究への研究協力について承諾が得られた274の介護保険施設で働く看護職2,029名であった。質問紙は、基本属性、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の原案となる項目、中村らの作成した「臨床看護師の道徳的感受性尺度(以下、MSTと略す)」<sup>3)</sup>等で構成した。

分析方法は以下のとおりに行った。まず尺度開発の手順に従って項目を精選し、妥当性について構成概念妥当性と内容妥当性および基準関連妥当性を検討した。また、信頼性については、内的整合性を検討した。

項目選定については、欠損割合が高い項目、回答分布に偏りがある項目(天井効果およびフロアー効果を示した項目)を除外した。その後、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の原案となる項目を因子分析し、項目を絞り込んだ。構成概念妥当性については、絞り込んだ項目の確認的因子分析を行い、モデルの適合度により検討した。また、内的整合性については、クロンバック $\alpha$ 係数を算出した。統計解析ソフトはIBM SPSS Statistics Ver.20とIBM SPSS Amos Ver.20を使用し、有意水準は5%とした。

倫理的配慮としては、対象者に対して研究目的、研究方法、質問紙の回答は無記名で郵送による回収をし、個人や所属施設が特定されないようにすること等を文章で説明した。また、回収された質問紙の回答内容は統計的に処理し、研究結果の公表に際してもプライバシーが侵害されることのないようにすること、質問紙の返送をもって本研究への同意が得られたとすること等についても文章で説明した。以上のような配慮を行い、所属研究機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

### (3) 研究3

平成24年度は「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性を高める倫理教育プログラム」を作成し、介護保険施設で働く看護職25名を研究参加者として、実施・評価した。

倫理教育プログラムについては、看護者の倫理綱領等、倫理に関する知識や情報を提供するだけでなく、麻原らの考案した4ステップモデル<sup>4)</sup>を用いたグループワークを取り入れたプログラム構成とした。グループワークについては、1グループ4～5人の小グループに分かれて、介護保険施設の看護職が日頃抱えている倫理的ジレンマを題材にして、4ステップモデルを用いた事例検討を行った。事例検討の後には、各グループで話し合った内容を発表し、参加者全員で意見交換を行った。

倫理教育プログラムの評価については、倫理教育プログラムの実施前後で質問紙調査を行った。質問紙は、基本属性、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」、前田らの作成した「改訂道徳的感受性質問紙日本語版（以下、J-MSQと略す）」<sup>5)</sup>等で構成した。

分析方法については、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」と「J-MSQ」の全項目の合計得点と各下位尺度得点について対応のあるt検定等を行った。統計解析ソフトはIBM SPSS Statistics Ver.20を使用し、有意水準は5%とした。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究1

平成22年度は、介護保険施設の看護職が抱える倫理的ジレンマとその対処の特徴を把握するために、介護保険施設に勤める看護職20名を対象に半構成面接による調査を行った。

得られたデータを質的に分析した結果、介護保険施設の看護職は、入所者の安全を優先して行動を制限するべきか、それとも転倒のリスクを承知で入所者の自由を優先するべきかにジレンマを感じたり、何かを決める時に入所者自身の希望より、家族の都合や希望が優先される状況にジレンマを抱いたりしており、看護職は入所者の生活の様々な場面における倫理的価値の対立状況を見出していた。これらの倫理的価値の対立状況に対して、看護職は、入所者にとって最善の選択ができるように、多職種を交えて話し合うようにしていた。

その一方で、入所者が倫理的価値の対立状況に陥っていても、何もしない看護職もあり、倫理的価値が対立する状況に気付いているにもかかわらず、自ら関与しようとしないう看護職がいることが示唆された。

##### (2) 研究2

平成23年度は、前年度の半構成面接による質的研究のデータを基に「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の原案を作成して老年看護学領域の教員間で内容妥当性を確認し、質問紙を構成した。

全国の介護保険施設から無作為に抽出した約2,000施設に研究協力を依頼し、施設長より承諾の得られた274の施設の看護職2,029名を対象とした。有効回答の得られた869票を分析対象として因子分析を行い、4因子17項目の尺度を作成した。

基準関連妥当性については、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の全項目の合計得点と中村らのMSTの全項目の合計得点との相関係数を算出し、 $r=0.23$ と低い正の相関がみられた。また、確認的因子分析に

よってモデル適合度を算出した結果、GFI=0.95等の値が示され、適合度の容認基準を満たしていると考えられた。

内的整合性については、クロンバック $\alpha$ 係数を算出した結果、全項目の合計得点のクロンバック $\alpha$ 係数が0.85、各下位尺度子のクロンバック $\alpha$ 係数は0.72以上であり、一定の内的整合性が示された。

これらの結果より、今回作成した「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の信頼性・妥当性が確認された。

##### (3) 研究3

平成24年度は、介護保険施設で働く看護職25名を対象に、その道徳的感受性を高めるための倫理教育プログラムを開発し、実施・評価した。

倫理教育プログラムの実施前後で「J-MSQ」の全項目の合計得点、下位尺度の得点、および「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の全項目の合計得点に有意差が見られなかった。しかし、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の2つの下位尺度の得点では有意差がみられ、倫理教育プログラム実施前に比べ、倫理教育プログラム実施後の得点が有意に高くなっていた( $p < 0.05$ )。

以上より、今回作成した倫理教育プログラムは、介護保険施設の看護職の道徳的感受性を高める一定の効果があるのではないかと推察された。

#### 文献

- 1) Powers B. A. , Everyday ethics of dementia care in nursing home : A definition and taxonomy , American Journal of Alzheimer's Disease, 15 (3), 143-151, 2000.
- 2) 岡谷恵子, 看護業務上の倫理的問題に対する看護職者の認識, 看護, 51(2), 26-31, 1999.
- 3) 中村美知子, 石川操, 西田文子他, 臨床看護師の道徳的感受性尺度の信頼性・妥当性の検討, 日本赤十字看護学会誌, 3 (1), 49-58, 2003.
- 4) 麻原きよみ, 現場のジレンマと向き合う技法 倫理的意思決定の「4ステップモデル」を活用しよう! 保健師は日常の活動のなかで倫理的ジレンマを感じている, 保健師ジャーナル, 64 (2), 144-148, 2008.
- 5) 前田樹海, 小西恵美子, 改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) の開発と検証 : 第1報, 日本看護倫理学会誌, 4(1), 32-37, 2012.

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計3件)

①藤野あゆみ, 百瀬由美子, 松岡広子, 天木伸子: 介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度の作成, 日本老年看護学会第17回学術集会, 2012年7月14-15日, (石川県)

②Fujino, A, Momose, Y, Matsuoka, H, Amaki, N: Ethical dilemmas of nurses working in elderly health care services facilities and dealing with dilemmas in settings of caring for elderly dementia residents, 27th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2012, 3, 7-10, London (England)

③藤野あゆみ, 百瀬由美子, 松岡広子, 天木伸子: 介護老人保健施設で働く看護職が抱く倫理的ジレンマ, 日本看護科学学会第31回学術集会, 2011年12月2-3日, 高知県

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤野 あゆみ (FUJINO AYUMI)  
愛知県立大学・看護学部・講師  
研究者番号: 00433227